

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	・一昨年拘束ベルトを外すと目標を掲げた1名が今だ外せていないので、再度目標として掲げてみた。 重度の認知症の方で、体力的に落ちたとはいえ、指示も入らない状態なので、家族とも話し合い了解を得て、そのまま継続しているが、身体拘束未実施減算が新たに新設されて、拘束に至る条件とそれに伴う検証や対策会議実施報告書も厳しく問われる様になったので、家族の了承を得るだけでなく、検討会はもちろん完全に外す方向でいかなければいけない。	・車椅子の拘束ベルトをはずす。	・課題欄の通り、完全に外す方向で検討会を進めていく。	3ヶ月
2	49	・全員という訳にはいかないが、外出希望のある人に対してはできるだけ対応したいと考えている。人材不足で、一人ひとりに丁寧に対応できるだけのマンパワーがないのが悩みどころ。家族に協力できるところはして頂いて、そうでないところは、受診時等の外出ついでに、時間が許す時に限り、買物同伴している。	・ユニットで、買物等の日を決めて、外出可能な人のみ連れて外出をする。(2カ月に1回) ・認知症カフェに出かける。(月に1回)	・外出や買物、食事等の希望を伺っていく。それに合わせて、スタッフの人員配置を行っていく。	6ヶ月
3	48	・G.Hとしての役割は認知症利用者の生活リハを通して認知症の進行を遅らせる事であることから、重症化している利用者であっても、できる事を探していかななくてはいけないが、介護量も増えてきている中で、できる事を探し、寄り添う時間を作りださなければいけないジレンマを抱えている。	・日常生活の中で、利用者と一緒に取り組む時間がないので、季節ごとに(例:4ヶ月に一回)食事を催し、その時に利用者と一緒に食材の準備をしたり、作る楽しみを持って頂く。	・5月五平餅会、11月収穫祭、3月お彼岸(ぼたもち会)を年間計画に組み込んで、利用者と一緒にご飯をつぶし、丸めていく等の作業をしてもらう。 ・食器拭きや片付け等できる事を出来る方にってもらう。	6ヶ月
4	2	・昨年、認知症カフェに通っている。それが発端となり、当施設でも認知症カフェ「カフェたのしや」を立ち上げた。”地域の人にも気軽に立ち寄ってもらえる様な施設になる”を目標に立っている。	・認知症カフェをきっかけに、出会いの場を広げ、当施設の利用者の出かける場の選択肢を多くする。	・出かける場所は今の所「かもめカフェ」だけなので、出かけられる先を増やしていく。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。